



1988年慶應義塾大学医学部卒業。同大学医学部内科学教室専任講師などを経て、2023年から現職。大分大学医学部内分泌代謝・膠原(こうげん)病・腎臓内科学講座教授兼任。

2023年4月の開設から1年が経過した大分大学

医学部附属病院の「肥満・糖尿病先進治療センター」。これまで積み上げてきた肥満症治療の実績やチーム医療体制を基盤に、さらなる飛躍を目指している。

―センター開設の背景は。

肥満は、糖尿病や高血圧、心筋梗塞や脂肪肝などさまざまな疾患の原因となりま

ことが長年の課題です。

当院は高度肥満症に対する外科手術を全国の大学病院に先駆けて開始し、行動療法などを取り入れた内科的治療でも実績を積んできました。うつ病や睡眠時無呼吸症候群、月経異常、関節痛といった肥満の患者さんを取り巻く多様な問題に、個別の診療科だけでなくチームでアプローチする体制も以前からありました。

看板を立てることでこの体制を強化するとともに、課題解決に向けた県民への啓発活動、臨床研究で新たな知見を得ることを目的に、当センターが開設されました。

―センターの体制と、開設からこれまでの手応えは。

内分泌・糖尿病内科が窓口となっており、同科では糖尿病患者さんに対して体重減少が期待できる「SGLT2阻害薬」や「GLP-1受容体作動薬」などを用いた内科的治療を行っています。最初から高度肥満症の外科手術を希望して消化器外科を受診する患者さんもありますが、治療方針を総合的に立てるために必ず一度は内分泌・糖尿病内科を受診してもらっています。

そして患者さんの状態に応じて循環器内科や呼吸器・感染症内科、産科婦人科

精神科、整形外科などが治療に関わります。加えて看護師や管理栄養士らが生活・食事指導に当たり、多診療科、多職種によるチーム医療を実践しています。同じ内容の助言をするにしても多診療科、多職種の異なる視点から伝えることで、患者さんの心に響きやすくなるのではないかと思います。

開設以降、多くの患者さんが訪れています。肥満(症)は自己管理の問題と捉える方も多いと思いますが、間違いなく「病気」として捉えるべきです。専門家の指導に基づく食事や運動を無理なく継続してもらうためにも、当センターの役割は大きいと自負しています。

また内分泌・糖尿病内科や大分県糖尿病臨床医会の糖尿病専門医は、県独自の「おおいた糖尿病相談医」に登録されている開業の先生方に月1回程度、講習会を開催しています。薬を処方する際の注意点や、どのような患者さんであれば自身で担当するか、あるいは糖尿病専門医に紹介すべきかを説明しています。専門医が不足する中、非専門医の先生方とも連携して患者さんを診るために必要な情報発信をすることも、センターの役割の一つです。

―今後、目指すことは。

将来的には、運動療法の実践の場として病院敷地内にフィットネス施設を設置

できたらと考えています。

また本来は糖尿病治療薬のGLP-1受容体作動薬はここ最近、肥満でない人がダイエットや美容目的で安易に求めるようになりま

した。供給が追いつかず糖尿病患者さんに十分に行き渡らないことも問題になっており、適切な利用を呼び掛ける活動も続けていきます。

センターという看板ができ、肥満でさまざまな困難を抱える方に早期からアプローチできるようになりました。早い段階で肥満にブレーキをかけられれば、合併症のリスクを低下させ、健康な人と変わらない生活を送ることができる。それを実現するには患者さんを総合的に診る必要があります。一人一人にベストな選択肢を示せるのが真のプロフェッショナルな集団だと思います。今後このスタンスを貫き、役割を果たしていきたいと考えています。

大分大学医学部附属病院
肥満・糖尿病先進治療センター
大分県由布市挾間町医大ヶ丘1-1
☎097-549-4411(代表)
https://www.med.oita-u.ac.jp/hospital/shinryoka_bumon/himan_tonyobyoy.html



大分大学医学部附属病院 肥満・糖尿病先進治療センター

健康障害引き起こす肥満に
チーム医療でアプローチ

しばた ひろたか
柴田 洋孝 センター長